

平成 26 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

輝かしい歴史と伝統を持つ鳳高校は、生徒の意欲と教職員の情熱を礎に、普通科単位制高校として確固たる地位を確立した。我々のこの日々の努力は進学実績として如実に現れている。しかし、学校の真価は単に進学者数のみで測られるものではない。知識の吸収だけに終わることなく、幅広い教養を身につけ、社会を正しく生きるための人間力を高めていく。この全人的な教育こそ、我々鳳高校に与えられた使命である。

この使命を果たすべく、鳳高校が育てる生徒を次の5つとする。

『探求する人』 『挑戦する人』 『教養のある人』 『思いやりのある人』 『振り返りのできる人』

2 中期的目標

◎ 鳳高校は、『第一志望をかなえる鳳』、『100%を目指す鳳』を合言葉に、以下を本校の中期的目標とする。

- 1 前に踏み出す力を育て、生徒の第一志望をかなえる。
 - (1) 高い志を抱き、信念を持って果敢に挑戦する姿勢を育む。
 - (2) 普通科単位制の優位性を生かせるよう、ガイダンス体制の一層の充実を図る。
 - ※ 生徒の学校満足度「入学して満足」が100%を目指す。
- 2 社会を生き抜く人間力を育成する。
 - (1) 人に心を開き、思いやりをもって接することのできる生徒を育てる。
 - (2) 発信力、傾聴力を備えたコミュニケーション力を身につけさせる。
 - (3) 社会のルールや人との約束を守る規律性の大切さを教える。
 - ※ 生徒の「自己管理能力は十分にある」が100%を目指す。
- 3 疑問を持ち、その解決に向けて考え抜く力を育てる。
 - (1) 知識詰め込み型から、課題探求型授業への移行を図る。
 - ・ 生徒自らが課題を発見し、解決のためのプロセスを探究する姿勢を育てる。
 - (2) 「授業アンケート」を分析し、教職員の授業力向上のための材料とする。
 - ・ 公開授業、研究授業を通じて、教員間で効果的な授業法についての意見交換を行う。
 - ※ 生徒の「授業内容はよく理解できる」が100%を目指す。
- 4 広報活動を学校経営の重要戦略と位置づける。
 - (1) あらゆるチャンネルを通して本校教育活動の情報発信を行う。
 - (2) 入学後のミスマッチを防ぐために、中学生が本校に魅力を感じて受験するよう、正確な情報の収集と提供を行う。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析	学校協議会からの意見
<p>■志望動機</p> <p>○63期(単位制・前期入試の始まり)と64期は「学力」で選び、65期・66期・67期は「前期」である。ところが、68期と69期(現1年生)では再び「学力」が首位に返り咲いている。来年度もこの傾向は維持されるのだろうか。</p> <p>○「経済的理由で公立を選んだ」のが突出している09年度はまさにリーマンショックがあった年で、家計への危機意識が表れているのだろう。生徒のほうがより敏感である。他の資料でも、この年に私立の専願率は下がり、公立の倍率が急上昇している。翌々年の11年度からは私立の無償化が拡充され、専願率は急上昇した。</p> <p>■入学満足度</p> <p>○保護者や教員が思っている生徒の満足度は9割を超えているのに対し、肝心の生徒では8割をきっている。とくに3年生では顕著な低落傾向がある(それでも高い)。</p> <p>○「進路実現」を旗印に生徒を駆り立てている側面が生徒を苦しめているかもしれないし、「もっと自由に科目選択できると思っていたのに、そうでもなかった」という声もある。</p> <p>○生徒の満足度の高いものをクロス集計で処理すると、「授業集中」とはかなり相関が高く、「わからないときは先生に聞く」とはあまり相関がない。「選択のための情報集中に積極的」「進路に必要な科目が選択できる」「学習環境が整っている」「部活動環境が整っている」とは、当然ながら相関が高い。</p> <p>■期別特性</p> <p>62期; 学区改編の初年度。広報委員会始動。</p> <p>63期; 単位制への改編初年度。1年次2年次は落ち着きなかったが、3年次に豹変し、成果をあげた。</p> <p>64期; 公立復帰が進み、まじめで謙虚。「いい生徒が入ってきた」だけではないが、進学実績はめざましかった。</p> <p>65期; 授業集中も授業理解もできてないと自覚しているが、かなりの進学実績を挙げた。「大学後期入試までがんばらせた」という声が多い。</p> <p>66期; 私立高校無償化で、公立特需がなくなった学年である。志望理由を</p>	<p>第1回 7月23日</p> <p>(1) 本年度の進路状況について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 国公立大学進学者ならびに未定者(浪人生)の減少傾向がみられた。新課程入試を来年度に迎えるため、今年で決着をつけようとする者が目立った。本来なら国公立大を目指してチャレンジする者が、私学にも流れた。親子ともども浪人を選べる傾向があった。 ・ 教員の指導状況には変化はなく、むしろ一丸となつてますます熱心に講習等が行われている。 <p>(2) 平成26年度学校教育計画について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 開かれた学校づくりの一環として、ホームページ委員会を設立し、学校として本格的に取り組む。 ・ 評価指標の設定し、「センター試験の平均点が全科目全国平均を上回ること」「ガイダンス面談に対する肯定度90%以上」等を目指す。 ・ 授業アンケートを年2回、いずれも「鳳方式」で行い、授業力の向上に努める。 <p>(3) 平成26年度入学者選抜について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒の特質はあまり変化なし。入学生の部活動加入率は89% ・ 旧9学区になかった前期入試が、今年度から各学校2クラスは前期募集になり、地元に戻った様子が見受けられた <p>(4) 広報活動について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 鳳高校をよく知った上で入学してもらうため、広報活動に力を入れている。受け入れた生徒をどのように育てているのかを知ってもらいたい。 ・ 全校をあげてのガイダンス週間や、面談を通してしっかりと第一志望を定めることができるなど、本校のガイダンスについて周知をはかっている。 <p>第2回 11月5日</p> <p>(1) 授業見学について</p> <p>ア) 今年度新規採用の数学科教員の授業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 硬さは感じられたが、全体的には落ち着きのある授業が展開されていた。細かいところで改善すべき点はあるが、声もよく通り、説明も落ち着いていた。素質が感じられた。今後が期待される。 ・ 「実はこんな方法もあるよ」というαの話があればもっと惹きつけられる。 ・ 一般論として、円や直線をコンパスや定規で描くのは交差点ごとに信号待ちをするようなもので、集中が途切れてしまう。是非フリーハンドで描いて欲しい。

<p>「単位制」としたものが17%とピークであり、突出している。64期・65期という特徴的学年に比して、以前の鳳高校に戻った感がある。</p> <p>67期；現3年生で、進路実績はまだである。自己肯定感が強く、学校への信頼感が弱い。この傾向がこれからも続くかどうかは注目する必要がある。</p> <p>○ ここ10年で府全体も鳳高校も大きく変化した。微細な数値の変化からの分析は、危険を伴うことも自覚したい。</p>	<p>イ) 再任用の理科教員の授業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・堂々とした貫禄が感じられた。豊富な知識を背景に授業が展開されておりストーリー性もあり、話に引き込まれた。 <p>(2) 集中講座「史跡探訪」の報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単位制ならではの集中講義形式の講座。今年度は「自然と人間」をテーマに、徳島県（眉山・鳴門・大麻比古神社・霊山寺・ドイツ館など）を中心に学習した。 ・研修中は非常に暑かったが、事前学習のかいもあって、非常に充実した2日間となった。学習面でも非常に効果的であったので、来年度以降も継続していきたい。 <p>(3) 平成26年度前期授業アンケートについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度より年2回の実施。本年度は前期・後期ともに個別方式で実施する。 ・一斉方式のメリットもあるが、やはり個別方式の方が記述欄への書き込みも多く、以後の授業改善に役立てやすい。 ・担当者が回収する方式では、あまり思い切ったことが書けないのではないかと懸念もあるが、結果として、生徒は忌憚のない意見を書いているので問題は感じられない。授業の様子は反映されているようだ。 ・数字は嘘をつかない。生徒が中心の授業か、教員自身が中心の授業になっているかは如実に現れる。教員には「一生の仕事としてやっていく」という気概が必要。 <p>(4) 意見交換など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単位制に改編して7年目を迎えているが、大枠では予定していた通りの内容で単位制のシステムが動いている。教員の入れ替わりはあるが、新しく来られた方々から否定されるようなことはなく、それぞれ一員として頑張ってもらっている。改編に多くの教員を巻き込んでできたのがその要因ではないか。 ・今は何かというと「改革」が迫られるが、逆に鳳高校の成功例をスタンダードとして府教委に売り込んでみてはどうか。子供たちの意識の変化、教員の意識の変化に対応している姿を認めさせて欲しい。 <p>第3回 2月13日</p> <p>(1) 前回の協議会以降の主な学校行事について報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員人権研修実施形態（校外において実施）、センター試験受験動向について意見交換。 <p>(2) 学校教育自己診断報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・志望動機、私学の専願率との対比、3年次生の学習量、若い教員の視点、3者（生徒・保護者・教員）の満足度比較、期別特性などで意見交換。継続の重要性確認。 <p>(3) スピーチコンテストなど、その他全般について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スピーチコンテストのレベルが高い。聴いている生徒の様子も年々真剣さが増しているように思う。もっと外に向けてPRしてもよい。自分をどう見せるかに終始している生徒もいるが、聞き手を楽しませようとする生徒も多く、感心した。 ・鳳の英語科の教員の団結力が素晴らしい。指導もしっかりしており、成果があがっている。 ・日本の教育力は素晴らしい。インドネシアでは未だに計算はフィンガーカウンターでなかなか学力があがらない。読み書き計算は本当に肝要。 ・学校教育自己診断は、担当の教員の研究姿勢がよい。ここまでの報告書を作っている学校はあまりないと思われる。鳳高校はここ数年安定して、いい雰囲気だ。
--	--

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
<p>1. 前に踏み出す力を育て、生徒の第一志望をかなえる</p>	<p>(1) 生徒が高い志と信念を持って、進路実現に粘り強く取り組む姿勢を育む。</p> <p>(2) 普通科単位制の優位性を最大限生かすよう、ガイダンスの一層の充実を図る。</p>	<p>ア・進路決定に参考となる資料や情報を収集するなど、進路実現に向かう道筋を生徒に考えさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 普通科単位制の優位性を生かし、生徒が興味・関心や適性に応じた進路目標を設定し、適切な科目選択を行うよう導く。 安易に妥協せず、生徒が強い意思を持って進路目標の実現を果たすよう指導する。 より幅の広い進路選択が可能となるよう、センター試験の受験者の増加を図る。 大学、専門学校、就職を目指す生徒それぞれに応じた指導を行い、全員の希望を実現する。 自己の目標達成のためには難関大学であってもチャレンジする気概を育てる。 変化する社会に対応できる柔軟で幅広い能力を養う。 自学自習時間を日々欠かさず持つよう指導する。 <p>イ・全教職員が生徒一人ひとりにきめ細かいガイダンスを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 多分野の専門家、卒業生を招いた講演会等を実施する。 	<p>ア・すべての生徒が希望に沿った進路を選択し、その進路の実現100%を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> センター試験受験者の平均点が、どの教科科目においても全国平均を上回る。 進路に関するホームルーム、各学年月1回以上 進路に関する説明会等、月2回開催 生徒の自学自習時間、平日3時間、休日6時間以上 <p>イ・ガイダンスに係る生徒アンケートの肯定的回答が90%を上回る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 全教員によるガイダンス年間2回実施(のべ10日) 全教員による1・2年次生全員対象の申請書点検の実施 ガイダンス(進路啓発)HR(含総合学習)1年次年間15時間、2年次年間10時間以上 	<p>ア・国公立大学合格者は、現役が64名(昨年度44名)と数を伸ばした。浪人生は24名(昨年度38名)に止まったが、これは昨年度浪人をした生徒自体が少なかったことによると分析している。(◎)</p> <ul style="list-style-type: none"> センター試験受験者(自己採点参加者)228名(昨年度178名)で大幅に増加(◎) 大学入試センター全国平均点との比較では、「数学ⅡB」「生物」を除く教科科目においては全国平均を上回っている。(◎) 科目選択に関するものも含め、年間を通して進路関係のHR(1年次11時間、2年次12時間、3年次10時間)を実施した。(◎) 「職業プロに聞く」(PTA向け3回、1年生3回、2年生2回)や「大学の模擬授業」(国公立6日間連続、私大5日間連続)など、説明会や講演会を数多く催した。(○) 生徒の自学自習時間は、平日3時間以上3年61%(全学年24%)、休日6時間以上3年51%(全学年20%)で、昨年度とほぼ同じ。(○) <p>イ・ガイダンスのアンケート、「相談した結果はどうでしたか」、「ガイダンス面談は役に立ちましたか」の二項目について、1年生、2年生とも肯定的回答が95%を超える高いものとなった。(◎)</p> <ul style="list-style-type: none"> 全教職員によるガイダンスを、6月に5日間、10月にも5日間実施した。(○) 10月には1・2年生全員対象の科目選択申請書の点検も行い、ガイダンスと併せて生徒の進路選択をしっかりと把握した。(○)

府立鳳高等学校

<p>2. 社会を生き抜く人間力を育成する</p>	<p>(1) 思いやりをもって人と接する生徒を育てる。</p> <p>(2) 発信力、傾聴力を備えたコミュニケーション力を身につけさせる。</p> <p>(3) 社会のルールや約束事を守ることの大切さを教える。</p> <p>(4) 安全で安心な学校をみんなで作る。</p>	<p>ア・自治会活動、学校行事、部活動を通して、仲間との協働力、困難を乗り越える精神力、チームを率いるリーダーシップを育む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・気持ちの「集中と切り替え」を教え、学習活動と部活動・学校行事の両立を図る。 <p>イ・オーストラリア海外研修、スピーチコンテスト、使える英語プロジェクト等を通して、プレゼンテーション力、およびグローバルなコミュニケーション力を育成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器を効果的に活用する力を獲得させる。 <p>ウ・挨拶、時間厳守、身だしなみ、清掃を徹底する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・登下校時の安全指導に取り組む。 <p>エ・課題のある生徒に対し、きめ細かい指導を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スクールカウンセラーと教職員の情報交換と共通理解を促す。 ・月一回教育相談委員会を開催し課題を有する生徒に関する情報交換を行なう。 ・発達障がい等への教職員の理解度を高める。 ・薬物乱用防止のための取り組みを実施する。 ・ビデオカメラを設置するなど校内の防犯体制を強化する。 	<p>ア・校内活性化委員会を中心に部活動のリーダー会議を開催し、『人間力』の育成を図る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部活動加入率100%を目指す <p>イ・保健体育科の「保健」の授業、情報科の「情報」でのプレゼンテーションの実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スピーチコンテストの観覧を近隣高校、地元中学へ呼びかける。 ・スピーチコンテストの報告書を本校教育活動の情報発信材料とする。 ・国際交流研修に参加する生徒15名以上 ・史跡探訪に参加する生徒15名以上 <p>ウ・生活確立週間を年間3回実施（のべ15日）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎日の登校時、および下校集中時に安全指導を実施 ・部活動生徒全員に対する一斉指導を年3回以上実施（清掃の意識喚起も行う） <p>エ・スクールカウンセラーと教職員のケース会議を適宜迅速に開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発達障がいや精神的疾患など教育相談に関するテーマで研修を実施 ・薬物乱用防止教室を年2回実施 	<p>ア・部活動加入率89.0%で昨年度を大きく上回り、部活動に活気が戻った。(◎)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クラブ代表者会議を通して、クラブ単位での人間力の育成のための仕掛けを作った。(○) <p>イ・2年生全員が『スピーチコンテスト』に取り組んでいる(2月13日開催予定)。生徒の英語運用能力及びプレゼンテーション力の向上にきわめて有効である。(◎)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『スピーチコンテスト』を近隣の中学校、府立高校、PTAに宣伝し、観覧希望を募った。他校の英語教員も見学に来る予定。(◎) ・オーストラリア国際交流研修(参加生徒21名)を実施し、実りある成果が得られた。(○) ・史跡探訪(参加生徒19名)を実施した。徳島方面の地誌を、実地学習を通して習得した。(◎) ・1年「保健」「情報」で個々の生徒がそれぞれのテーマでプレゼンテーションを行い、情報発信能力を向上させた。(○) <p>ウ・生活確立週間を5月、9月、2月と年間3回実施し、基本的な生活習慣の徹底と服装頭髪の乱れを改善した。(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・登校時、下校時の安全確保のため、全職員で当番を割り当て、指導を行った。(○) ・部活動生徒に定期考査の終了時を利用し、安全指導を行い、校内・校外の清掃活動を行った。(○) <p>エ・スクールカウンセラーと教職員のケース会議を年間19回開催し、対応を協議した。同時に、スクールカウンセラー事例発表会において府の代表として発表を行った。(◎)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学より講師を迎え、発達障がい(特にアスペルガー-障がい)をテーマとした研修を12月8日に実施し、見識を深めた。(○) ・薬物乱用防止教室を年2回実施し、薬物の危険性を訴えた。(○)
<p>3. 疑問を持ち、その解決に向けて考え抜く力を育てる</p>	<p>(1) 知識詰め込み型から課題探求型授業への移行を図る。</p> <p>(2) 「授業アンケート」を分析し、教職員の授業力向上のための材料とする。</p>	<p>ア・生徒自らが課題を発見し、解決のためのプロセスを探究する姿勢を育てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公開授業、研究授業を通じて、教員間で効果的な授業法についての意見交換を行う。 <p>イ・生徒による授業アンケート(年2回)結果を分析し、授業改善に生かす。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者に対し、年2回の公開授業への積極的な参加をもとめる。 ・教科を超えた授業見学を通して、若手教員の授業力向上を図る。 	<p>ア・授業アンケートの結果を学校全体・教科ごとに集約し、全教員で共有</p> <ul style="list-style-type: none"> ・半期認定科目30科目、全体として140科目の設置 ・公開研究授業を年間5回実施 <p>イ・初担任、新任教職員の情報交換会を年に10回以上実施(ベテラン教職員の体験談を聞く機会をつくる)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者の公開授業参加を年間100名以上 	<p>ア・授業アンケートを年2回実施。2回目については現在フィードバック中。授業力の向上を図っている。(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒のニーズに合った学習計画に資するために、半期認定科目36科目を含め全147科目を設置した。(○) ・公開研究授業は11月に2週間、経験の浅い教員を中心に実施し大きな成果を得た。(◎) ・新任教員の情報交換会を定期的に実施した(7回実施)。今年度より、本校が2校目となる教員の会も発足した(4回実施)。(◎) ・高大連携による単位習得者は今年度4名(H23:6名、H24:6名、H25:3名)。今後も立命館大学、関西大学との連携講座は継続する。1(○) ・保護者向けの公開授業を5月、10月に実施。134名(昨年度106名)の保護者の参加があった。(◎)

府立鳳高等学校

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">重要戦略と位置づける</p> <p style="text-align: center;">4. 広報活動を学校経営の</p>	<p>(1)あらゆるチャンネルを通して本校教育活動の情報発信を行う。</p> <p>(2)入学後のミスマッチを防ぐために、中学生が本校の真の価値を理解して受験するよう情報の収集と提供を行う。</p>	<p>ア・広報委員会を中心に、効果的な広報活動を考え実践する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・HP を運営していくために、独立の委員会（HP 委員会）を設置する。 ・学校HPをきめ細かく更新する。 ・学校協議会の意見・提言をとおして学校の立ち位置を確認し、方向性を点検する。 <p>イ・全教職員で在校生出身中学を訪問し、情報交換を密にする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育産業との意見交換を適宜おこなう。 	<p>ア・全教職員で4学区全中学校を訪問</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校HPを月に2回以上更新 ・学校協議会を年間3回開催 <p>イ・参加要請のある学校説明会（中学校主催、教育産業主催）にはすべて参加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校見学会を年間3回（含 鳳高祭）開催 ・中学生（保護者）の個別の要望にもきめ細かく対応 ・広報の重点を「受験生の量的拡大」から「鳳高校の特徴を理解した上でめざしていただく」にシフトしていく 	<p>ア・本校の誇る『スピーチコンテスト（2月13日実施予定）』を近隣の中学校、府立高校に宣伝し、観覧希望を募った。生徒のみならず他校の英語教員も見学に来る予定。（◎）・6月下旬から7月にかけて、近隣学区の全中学校を訪問し、説明を行った。（○）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・独立したHP委員会が発足し、HPのきめ細かい更新（月10回程度、分掌、学年、部活動等）が実現した。（◎） ・学校協議会を3回実施。（第3回は2月13日の予定）し、学校運営への貴重な提言をいただいた。（○） <p>イ・本校における説明会を3回実施し、多数の来校を得た。（◎）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土曜日を利用し中学生（保護者）の個別の見学希望に全て対応した（個別中学校4回、合同1回）。（○） ・説明会の参加要請には全て対応した。（○） ・入学後のミスマッチを防ぐ意味でも、単位制鳳高のことを丁寧に説明した、保護者・中学生の理解を得た。（○）
--	---	--	--	--